

憚りながら——メディアは“クソを包む”のをやめよ

平和統一 NEWS No.76 (2014/ 12 月号)

渡辺 久義

かつて私は、高校教科書のダーウィン進化論の記述が、長年変わらず、触るのがタブーになっている事実について、教科書はまるでこの理論を「クソを包んで」次世代へ次世代へと手渡しているようだ、と書いたことがある。これを面白がってくれた人がいる。これは目を覚まさせるための、故意の品の悪い比喻だが、今この比喻をメディアについて使わねばならない。これを開けたら途方もない悪臭が世界を覆うが、これは人類の解放のための「ディスクロージャー」の第一歩でなければならない。

メディアはこの話を知っているだろうか？ おそらく知らないだろう。これは「**9・11の真相を糺すのもテロですか？——キャメロン英首相国連演説に対する公開質問状**」(11/5)として、我々のサイトに翻訳紹介されている。この質問者は、「私はこの質問状を、あなたが最近、ISISの脅威に関してイラクとシリアへの軍事介入を呼びかけた、国連における演説に対する反応として書いております」と始めている。そして、キャメロン首相が“非暴力過激派”と呼ぶ人々について警戒を呼び掛けていることについて、こう言っている。(この演説そのものもメディアは当然、報道していない。)

ISISの問題はしばらく脇におくとして、この9・11の証拠についての立場は、私には全く信じられないものです。これは極端に無知な者の言うことか、それとも自由と民主主義の英国社会の常識に、とうてい考えられないほどに逆らう者の立場です。世界中の膨大な数の、十分に信用でき、かつ専門的な人々が現在、9・11という事件が組織的に隠ぺいされ、一般大衆はこの問題について、全く信じられないほどに騙され踊らされていたことを示す、反論の余地のない事実と証拠を持ち出しています。それは一般大衆が、イラクの“大量破壊兵器”について騙され踊らされていたのと同じです。

あなたは、9・11に関するこうした証拠を持ち出すこのような人々を、“非暴力過激派”と呼んでいます。現在、9・11に関してニューヨーク市で行われていることを、あなたはお存知ですか？

あなたは、10万以上のニューヨーク在住者が、世界貿易センター「ビルディング7」の倒壊の新しい調査を、“高層建築安全イニシアティブ”を通じて行うことを求める請

願に、署名していることをご存知ですか？

あなたは、アメリカの公共団体の募金努力によって、現在、タイムズ・スクエアの中央に巨大なデジタル・スクリーンが設置され、WTC ビルディング7の統制された解体のシーンを、300万のニューヨーク市民に、連続ビデオによって見せている事実をご存知ですか？ これは、ほとんどの人がこれまで知らず見てもいなかった、巨大な47階建てのビルの（飛行機の衝突によるのではない）倒壊のフィルムです。

あなたは米議会の多くの議員がオバマ大統領に対し、9・11 調査委員会報告の28 ページ分の削除された部分を、公表するように要求しているのをご存知ですか？ これは、この部分を見る許可を得た2人の議員によれば、国民を仰天させるような情報がそこに含まれているからです。

にもかかわらず、あなたは世界に向かってこう言明しました——もし一般大衆の中に、9・11 に関するこのような事実や証拠や情報がより広く世界に知られ、適切な調査がなされることを願う者がいたら、それだけでもその者たちは「非暴力過激派」であり、ISIS の一味と判断する。

一国の首相がこの期に及んで、こんなウソを通せるものと想定し、これをウソではないかと疑うだけでもテロリストだと言い、メディアがこれを完全に無視し犯罪者に協力しているということ——これはどう考えても、我々が（ジョン・レノンが言ったように）狂人の支配する世界に住んでいるということである。質問状は終わりの部分でこう言っている——

9・11 は、中東でのテロと軍事行動に対する、いわゆる地球的戦争の動機となった事件です。現在、疑問の余地なく確かなことは、我々がこの事件の真相について、大きな規模で騙され踊らされていたことです。9・11 についての真の事実をつかむことは、我々が今、中東で目撃しているすべての問題と、いわゆるテロとの戦いの、核心に踏み込むことです。もしあなたが、通常の、思いやりがあり、愛国的な大衆を、ただ9・11 についていろんな質問をしたとか、ある証拠を持ち出したとかで“非暴力過激派”と決めつけ、またこの種のインターネットは検閲されねばならないと言明するなら、そのとき私は、あなたこそ極め付きの過激派であると言わねばなりません。

ここで言っているように、9・11 の正しい理解に立たなければ、その後13年間に起こった世界の重要な事件の「核心」が全くつかめないのだから、メディアの方々をお願いしたいのは、せめて、疑わしいことは疑わしいと言ってほしいということである。でないと、いよいよ收拾がつかなくなり、自ら墓穴を掘ることになるのではないか。新聞は、大ウソに目をつぶ

り、小ウソにいきり立つようなことはやめるがよい。購読者は減る一方である。